

# 進路環境

進路ガイダンスの話題に!

—「今」が見えてく

## 進学

### ● 高校生のオープンキャンパス参加校数

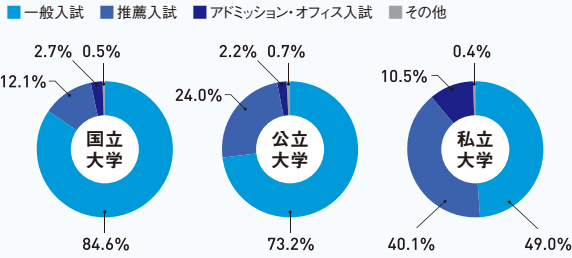


#### チェックシートも活用し、複数校の比較検討を

大学進学率への調査によると、高校3年間のオープンキャンパス参加率は94.2%。参加校数は1人平均3.8校だ。「学校の隠れた魅力に気づく」「学生の雰囲気を感じ取る」など、参加の効果は大きい。第1志望校はもちろん、併願校も複数参加し、チェックシートなどで記録を残そう。

リクルート進学総研「進学センサス2016」

### ● 入試方式別に見た入学者の割合



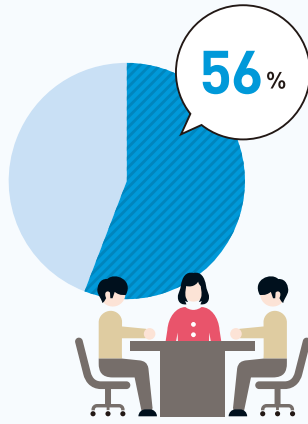
#### 国立は8割超、私立は約半数が一般入試で入学

国立では一般入試ルートが8割超。ただし、入試改革の動きのなか、国立大学協会は2021年度までに推薦、AO等の入学者を全体の3割に増やす目標を掲げている。一方、私立で半数を占める推薦、AO入学者は、一般入試入学者と比べて学力不足が指摘されており、入学前のフォローが必要。

文部科学省「平成27年度国公立大学入学者選抜実施状況」より集計  
※「その他」は専門高校・総合学科卒業生入試、帰国子女入試、中国引揚者等子女入試、社会人入試の合計

注目!

### ● 大学のラーニング・コモンズ整備・活用状況

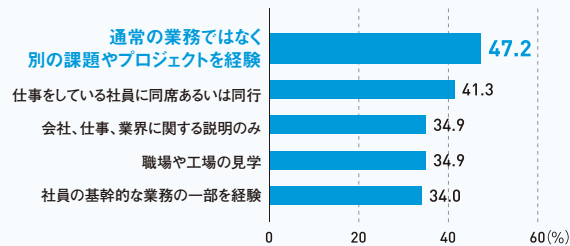


#### 主体的・対話的な学修の支援環境整備進む

大学では、グループワークやディスカッションなどを行う場としてラーニング・コモンズ整備や、能動的学修を効果的にカリキュラムに組み込むための検討(66.3%の大学で実施※)など、深い学びのための学修環境の整備が進んでおり、学生にも主体性の発揮が求められる。

文部科学省「大学における教育内容等の改革状況について」(平成26年度)  
※本文中の数値も同調査結果より

### ● 大学生・大学院生のインターンシップの内容



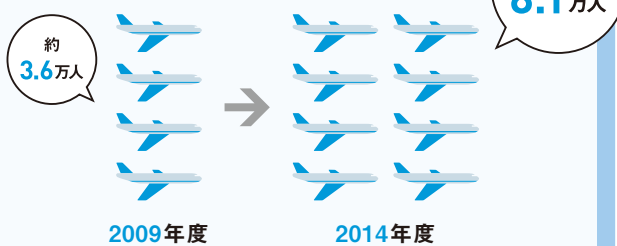
#### 約半数が課題解決型の内容を経験

2017年卒の大学生・大学院生のインターンシップ参加率は43.7%で、4年前の2倍以上に増加した。参加者の半数近くは新規事業立案や売上アップ施策提案などの「通常の業務ではなく別の課題やプロジェクト」に参加。仕事内容の具体的な確認や自分のスキルの見極めなどにつながっている。

リクルートキャリア 就職みらい研究所「就職白書2017」  
※インターンシップ参加者における割合/複数回答/上位5項目のみ掲載

注目!

### ● 日本人学生の留学状況



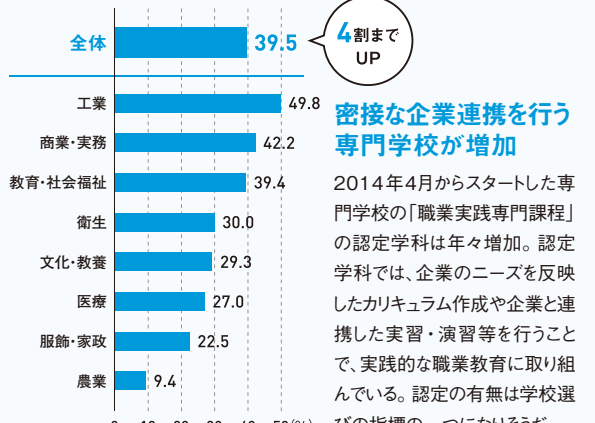
#### 大学生の留学数、5年間で2倍以上の増加

真のグローバル人材の育成のため政府は2020年までに日本人留学生を年間12万人に増やす目標を掲げており、留学生は今後さらに増える見込み。官民協働海外留学支援制度「トビタテ!留学JAPAN 日本代表プログラム」は費用面もバックアップ。各大学にも多様な留学支援制度がある。

日本学生支援機構「協定等に基づく日本人学生留学状況調査結果」(平成21年度・平成26年度)  
※協定等に基づく日本人学生留学状況及び協定等に基づかない日本人学生留学状況(在籍大学等把握分)の合計

注目!

### ● 「職業実践専門課程」の認定状況



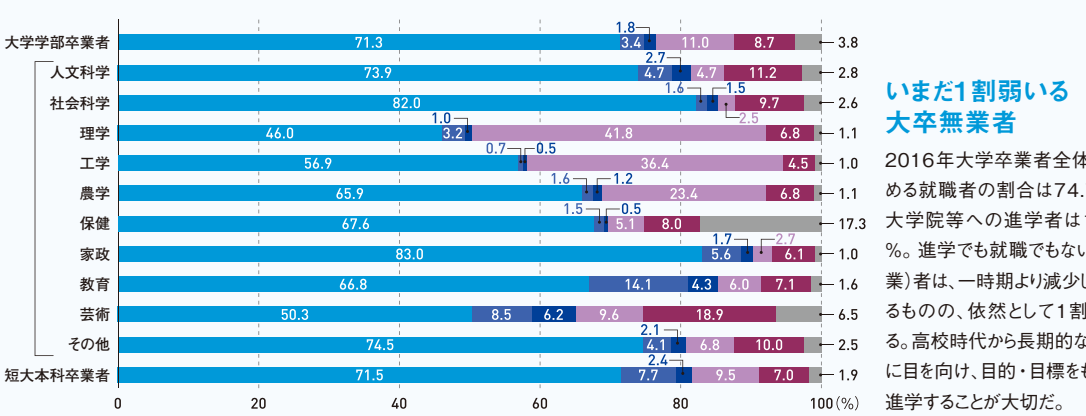
#### 4割までUP

#### 密接な企業連携を行う専門学校が増加

2014年4月からスタートした専門学校の「職業実践専門課程」の認定学科は年々増加。認定学科では、企業のニーズを反映したカリキュラム作成や企業と連携した実習・演習等を行うことで、実践的な職業教育に取り組んでいる。認定の有無は学校選びの指標の一つになりそうだ。

文部科学省「職業実践専門課程」の認定状況」(平成29年2月24日現在) ※学科数の割合

### ● 大学・短大卒業者の進路状況

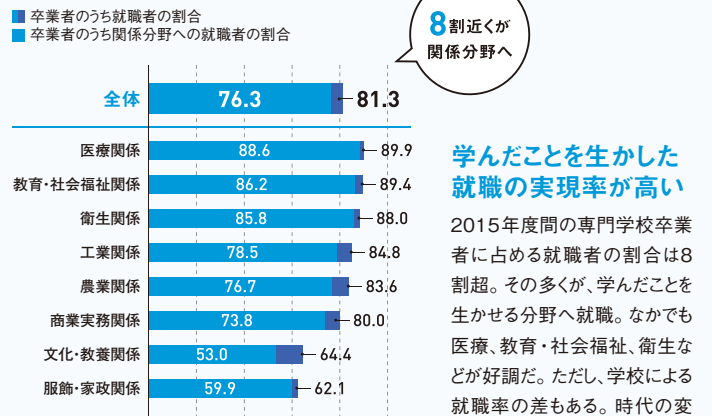


#### いまだ1割弱いる大卒無業者

2016年大学卒業生全体に占める就職者の割合は74.7%、大学院等への進学率は11.0%。進学でも就職でもない(無業者)者は、一時期より減少しているものの、依然として1割弱いる。高校時代から長期的な将来に目を向け、目的・目標をもって進学することが大切だ。

文部科学省「学校基本調査」(2016年3月卒業生について) ※「進学率」とは、大学院研究科、大学学部、短期大学本科、大学・短期大学の専攻科、別科へ入学した者(就職し進学した者を含む)  
※「正規の職員等でない者」とは、雇用の期間が1年以上の期間の定めのある者で、かつ1週間の所定労働時間が40~30時間の者  
※グラフでは「臨床研修医(予定者を含む)」「専修学校・外国の学校等入学者」「不詳・死亡の者」を「その他」として集計

### ● 専門学校卒業者の就職状況



#### 8割近くが関係分野へ

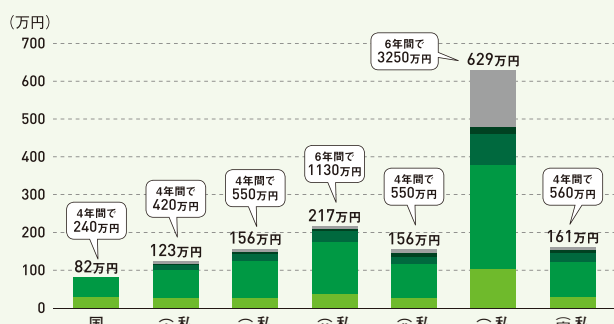
#### 学んだことを生かした就職の実現率が高い

2015年度間の専門学校卒業生に占める就職者の割合は8割超。その多くが、学んだことを生かせる分野へ就職。なかでも医療、教育・社会福祉、衛生などが好調だ。ただし、学校による就職率の差もある。時代の変化に対応した専門性を磨ける学校を選びたい。

文部科学省「学校基本調査」(2015年度間)

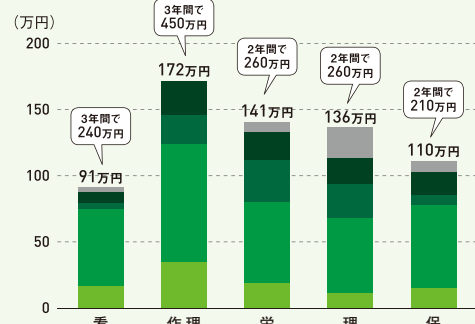
## 進学費用

### ● 大学の初年度納付金



文部科学省「平成26年度私立大学入学者に係る初年度学生納付金平均額(定員1人当たり)」(昼間部)  
※国立大学は標準額 ※1万円未満は四捨五入 ※フキダシの数字は卒業までにかかる総額の目安

### ● 専門学校の初年度納付金



東京都専修学校各種学校協会「平成28年度 学生・生徒納付金調査」専門学校(専門学校)平均(昼間部)より抜粋  
※1万円未満は四捨五入 ※フキダシの数字は卒業までにかかる総額の目安

#### 約100万円～分野により大きな差

大学の初年度納付金(上記凡例の5項目の合算)は、国立は一律82万円。私立は学部系統によって異なり、実験・実習の多い理系は高額になる。専門学校も分野の差が大きい。また、就学年数によって卒業までの費用が変わるので、入学前に見通しを立てておくことが大切だ。